

日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会

Injury Alert (傷害速報) Follow-up 報告 No. 6

2008年3月号から、日児誌に「Injury Alert (傷害速報)」を掲載し始め、2014年8月号でNo. 50となった。

傷害は、人々の健康問題として重要なものの一つである。生活機能が変化する乳幼児、高齢者、障害者において傷害の発生頻度は高くなる。子どもの生活環境に新しい環境や製品が出回ると必ず新しい傷害が発生し、子どもの傷害は一件だけということではなく必ず複数件発生する。事故による子どもの傷害は、全国で同じ傷害が同じように起こっているのが現状である。

傷害は予防する必要があることは誰もが指摘するがなかなかむずかしい。本誌の傷害速報は発生状況が詳しく記載されているが、発生状況の情報だけでは予防にはつながらない。この情報を、関係しているいろいろなところに送り、それぞれの立場から検討してもらう必要がある。すなわち、傷害速報として日児誌に事例が掲載されることは、予防のスタートラインにただけとあってよい。

傷害速報の情報を提供する先は、製品のメーカー、業界団体、管轄している国の行政組織や外郭団体、自治体、技術の専門団体、研究機関、デザイナー、メディアなどである。これまでにそれぞれの傷害速報の情報を提供したところと、それに対してどのような対応であったかを表に示した。空欄は情報提供をしていないところ、○印は情報提供に対して何も対応がなかったところ、●印は予防につながる活動をしたところを示している。

予防に至るまでにはかなりの時間がかかるのが一般的である。2012年8月号にInjury Alert (傷害速報)の報告後の経緯についてNo. 1から32までをFollow-up 報告No. 3としてまとめた(1)。今回は、これまでに報告した状況から進展したものと、No. 31からNo. 50までの報告のその後の経緯について報告する。

引き続き、会員の皆様からの傷害事例の投稿をよろしくお願いいたします。

No. 7 乳児用ベッドからの転落

Follow-up 報告No. 3で報告した後、経産省が主導して検討委員会が設置された。委員は、中立者(研究者、医療関係者、規格団体など)、製造業者、使用者、販売事業者、担当行政官など多くの関係者で構成され、最終的には2014年4月、木製ベビーベッドの日本工業規格(JIS)が改正され、横棧が足がかりになるような使い方ができない構造となった。具体的には、従来の製品では床板の高さ調整が上・中・下の3段階できるようになっていたが、「中段」を使うと横棧が足がかりとなってしまうため、新しい基準では、高さ調整は上・下の2段階となり、つかまり立ちができるようになったら床板を下段に調整して使用する基準となった。

No. 28 電気ケトルによる熱傷

現時点でも同じ事例が多発しているが、電気ケトルが倒れても、お湯がこぼれない、あるいは蒸気が出ない国産の電気ケトルが販売されるようになった。

No. 31 フード付きパーカーによる溢頸

日児誌に掲載(2012年6月)された直後に、経産省のいくつかの部署、東京都の部署、消費者団体にこの報告を送った。

これを見た消費者団体から業界団体に申し入れがあり、2012年7月半ばに「子ども服JIS化に向けての意見交換会」が開かれた。同年7月19日には、この事例が新聞記事に引用され、秋からは経産省が委員会を設置し、業界団体、消費者団体、学識経験者など関係者が集まって議論された。2013年3月19日の委員会で子ども服の引きヒモに関するJIS素案が決まり、2013年秋に日本工業規格(JIS)制定となった。

この委員会の委員長から「きちんとした情報を取って、それを公的な雑誌に載せたことが大きなきっか

表 日本小児科学会雑誌 Injury Alert (傷害速報) 報告後の予防に関する対応表

| No | 傷害速報の事例 | 製品メーカー | 業界団体 | 行政外郭団体 | 消費者団体 | 自治体 | 技術の専門団体 | 研究機関 | メディア | 備考 |
|----|---|--------|------|--------|-------|-----|---------|------|------|----------------------|
| 31 | フード付きパーカーによる溢頸 | | ● | ● | ● | ● | | ○ | ● | JIS化 (2013年秋) |
| 32 | 首浮き輪による溺水 | ○ | ○ | ● | | | ● | ○ | ● | |
| 33 | ジェット風船のパーツの誤飲 | | ○ | ○ | | | | | ● | |
| 34 | 歯ブラシによる刺傷 | ● | | ○ | | | | ● | ● | 改善検討中 |
| 35 | 鉄板による熱傷 | | ○ | | | | | | ● | |
| 36 | カーテンの留め紐による縊頸 | | ○ | ○ | ○ | ● | | ● | ● | JIS化を検討中 |
| 37 | オートバイによる頭部外傷 | ○ | | | | | | | | |
| 38 | キックスターターによる顔面外傷 | | | ○ | | | | | | |
| 39 | ストロー付きコップによる口蓋の刺創 | ○ | | ○ | | | | ○ | ● | |
| 40 | ウィルス除去と称される製品による中毒 | ● | | ○ | | | | | ○ | 消費者庁からウィルス除去効果は無効と発表 |
| 41 | 抱っこ紐からの転落による頭部外傷 | | ○ | ○ | ○ | ● | | ● | ● | 改善検討中 |
| 42 | ヘアアイロンによる口腔内電撃症 (熱傷) | | | | | | | | | |
| 43 | 自動車内への閉じ込めによる傷害 | | ○ | ○ | | | | | | |
| 44 | 助手席に進行方向後ろ向きに設置されたチャイルドシート着座中の頭部外傷 (自動車衝突時のエアバッグの展開による) | | ○ | ○ | | | | | | |
| 45 | 大豆の誤嚥 | ○ | ○ | | | | | | | |
| 46 | ジュースによる指挫創 | ○ | | | | | | | ○ | |
| 47 | 木製おもちゃの誤嚥による窒息 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| 48 | 水風船による窒息 | | ○ | ○ | | | | | ○ | |
| 49 | ブドウの誤嚥による窒息 | | | ○ | | ○ | | ● | ○ | 改善検討中 |
| 50 | 新しいタイプの洗剤 (1回分パックタイプの洗濯用液体洗剤) の誤飲 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ● | |

○印：情報提供しただけが対応なし

●印：情報提供先が広報したり、予防について検討中

無印：情報提供せず

けになったことは確かです。こういう情報が社会を動かすことがあるというあたりを学会でお話しただけだとありがたい」というお礼のメールが送られてきた。

No. 32 首浮き輪による溺水

日児誌に掲載（2012年6月）された直後に、輸入販売会社から法律事務所を通して、溺れた状況の推測に対する疑義の照会書が送られてきた。国民生活センターが検証を行い、消費者庁が溺れに至るメカニズムを7月末に公表した。以後、2012年10月、11月に発生した類似例2例をホームページ上に掲載した。

No. 36 カーテンの留め紐による縊頭

日児誌に掲載（2012年11月）された直後に、会員からブラインドの紐による窒息死例の投稿があり、類似例としてホームページに掲載した。2013年10月より東京都商品等安全対策協議会でブラインドの紐による窒息が取り上げられ、2014年2月に報告書を公表した(2)。それを受け、経産省は2014年度に「ブラインド等のひもの安全基準を検討する委員会」を設置することを決め、日本工業規格（JIS）の制定に向けて検討を開始した。

No. 41 抱っこ紐からの転落による頭部外傷

最近では、対面縦抱き抱っこが主流となり、多くの転落例が報告されている。2014年8月から東京都商品等安全対策協議会で抱っこ紐からの転落が取り上げられ検討されている。

No. 44 助手席に進行方向後ろ向きに設置されたチャイルドシート着座中の頭部外傷

助手席に進行方向後ろ向きにチャイルドシートを設置する危険性が指摘されているが、軽自動車に運転者と子ども3人が乗る場合、助手席にチャイルドシートを設置せざるを得ない状況となる。この問題をどう解決したらよいか、業界団体に問い合わせた。その回答として「助手席に後ろ向きにチャイルドシートを設置していてエアバッグが展開したとしても、このような大きな外傷を負うことは考えにくい。この事例の車では、助手席前のボックス部分にエアバッグが収納されており、展開時にチャイルドシートの背面に直接の力がかかって大きな圧が生じたと思われる。一般の車では、エアバッグは助手席前のダッシュボード部分に収納され、展開するときは上方に向かって展開し、フロントガラスの壁面に沿って膨らみ、助手席に設置された後ろ向きチャイルドシートへの圧力を軽減するようになっている」とのことであり、自動車の構造にも問題があることが判明した。

Injury Alert（傷害速報）の新しい利用法

会員から傷害速報の新しい利用法について情報提供があったので紹介したい。

「背中にアイロンによる熱傷痕がある5歳児の事例について、やけどの発生から1か月後に皮膚科から診療科ではない小児科医に相談があった。虐待の疑いが持たれたが、院内の虐待防止委員会で対応を協議した際に問題となったのは、どのように話を切り出すかということであった。「虐待の可能性があるので」とは言えない。そこで母親から発生状況を聴取するとき、「小児科医は事故を予防する活動をしており、同じ事故を二度と起こさないために、事故が発生した時の状況を詳しくお聞きし、その情報を学会誌に出して、企業や行政に予防を考えてもらっている。この活動に協力していただきたい」とInjury Alertの記事を母に見せながら持ちかけたところ、母親もスムーズに話しに応じてくれた。非常に有用であったことを報告します。」

傷害速報の利用の仕方として、有用な情報があればお知らせください。

Injury Alert（傷害速報）のアクセス数とダウンロード数

Injury Alert（傷害速報）は日児誌に掲載後、日本小児科学会のホームページ上で一般に公開している。

■ 2013年10月～2014年9月 PDFファイルダウンロード数

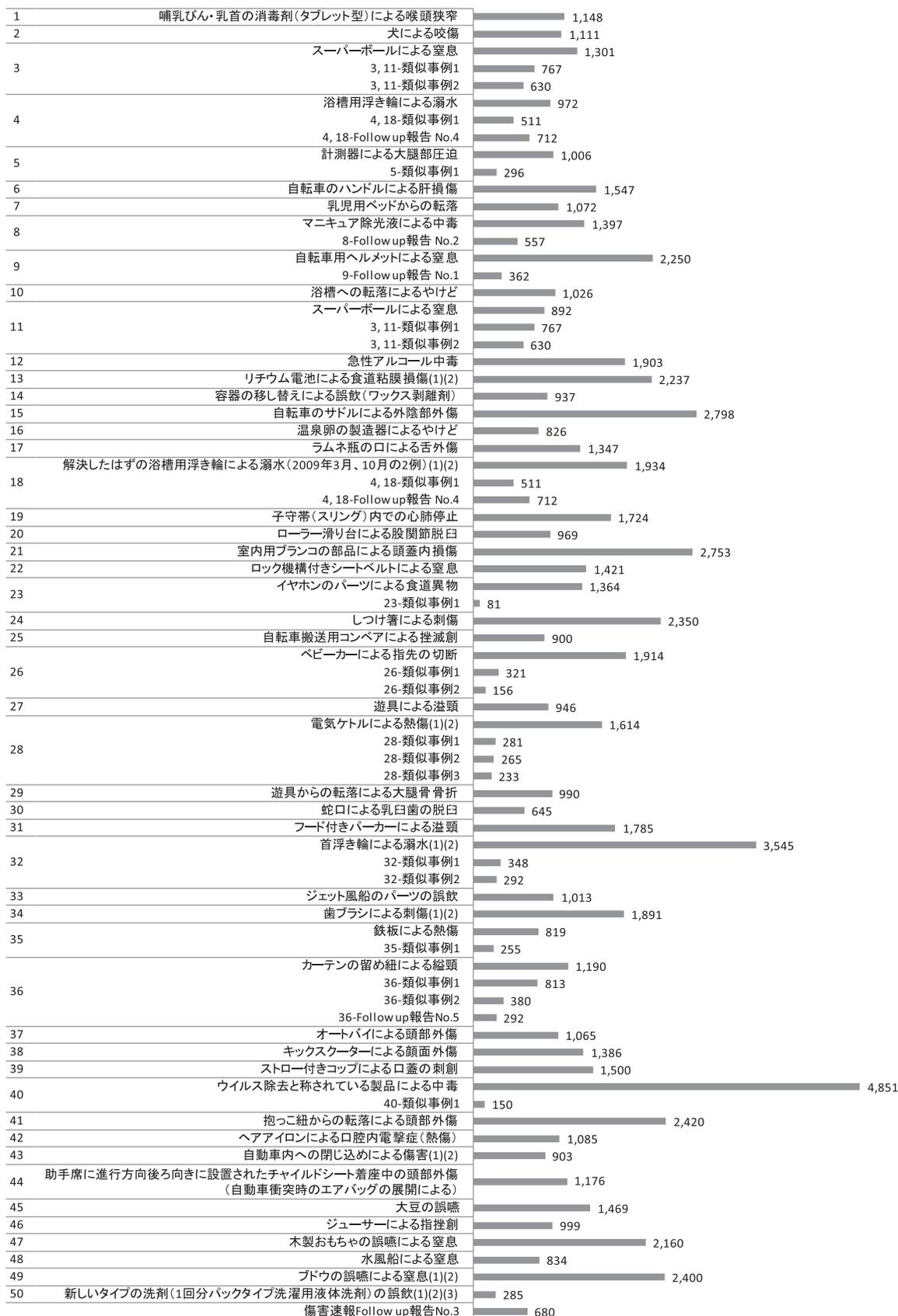


図 傷害速報 PDF ファイルダウンロード数

最近、アクセス数とダウンロード数が把握できるようになった。利用されたと評価できる可能性が高いダウンロード数について、2013年10月以降の1年間のデータをグラフ（図）に示した。ダウンロード数が多いものはメディアで取り上げられたときの増加と思われる。

文 献

- 1) Injury Alert（傷害速報）Follow-up 報告 No. 3：日児誌 116：1309—1310, 2012
- 2) こどもの生活環境改善委員会：Follow-up 報告 No. 5：日児誌 118：1036, 2014

2014年9月

こどもの生活環境改善委員会「傷害速報」担当

山中龍宏

井上信明